

いしかわ地域づくり 往来

[www.pref.ishikawa.jp/
shinkou/dukurikyou/](http://www.pref.ishikawa.jp/shinkou/dukurikyou/)

発行日／平成24年11月

発行／石川地域づくり協会

発行者／石川地域づくり協会事務局 事務局長 松島一富

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

石川県企画振興部地域振興課内

TEL. 076-225-1312 FAX. 076-225-1328

Vol.12



C o n t e n t s

1 石川地域づくり表彰 受賞団体・個人の取り組み

春蘭の里実行委員会	2
木滑 木舟会	3
NPO法人 金沢アートグミ／	
加賀まれびと交流協議会	4
宮本 康一氏	5

2 地域づくり円陣の報告

全体会・分科会・交流会	6
-------------------	---

1-a 石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み

石川県では、住民主体で地域の活性化に取り組む団体・個人を顕彰する「石川地域づくり表彰」を実施しています。平成24年度受賞団体・個人の表彰式は、9月8日に能登町で開催された研修交流会「いしかわ地域づくり円陣2012」で行いました。ここでは、受賞した団体・個人に取り組みを紹介してもらいます。

春蘭の里実行委員会

団体の部・大賞

「このままでは集落がなくなってしまう、なんとかしなくては」との思いで、平成8年から活動を始め、今年で16年目に入りました。平成9年に誕生した農家民宿も現在では30軒を超える民宿群となっています。最初はインターネットも使えない地域だということから、隠れ家的なところ、都会のことを忘れさせてくれるところということで話題になりました。現在では、パソコンも携帯電話も使える便利な地域となりましたが、こうした「何もない」地域もまだ世の中にあってもいいのではないかと思います。

もともと、若い人たちが帰ってこれるような地域を目指して始めた取り組みですが、最近では、これからの担い手となる若者が農家民宿を始めなど、地域に若い人たちが増えてきています。これは、私たちが単に民宿をしているのではなく、地域のお年寄りから子どもまで、皆一緒に交流することで、お互いに元気を分け与えることができる地域だからではないでしょうか。

また、能登の里山里海が「世界農業遺産」となったことから「春蘭の里」は、世界中から注目を集めています。国際交流に備えて地域ぐるみで勉強を続けていくことも必要でしょう。台湾の夫婦が宮地地区に一軒家を買ひ、民宿を始めましたが、彼らから中国語や台湾料理を教わり、国際色豊かなところになってきました。世界中の人たちが春蘭の里に来てもらった時に、元気な姿を感じられるような地域を目指して、これからもがんばっていきます。



1-b 石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み

木滑 木舟会(白山市)

団体の部・優秀賞

45年前に自衛消防組織として、30～40代のおよそ30名で設立しました。区内の祭事や伝統の踊りを伝承するなど、集落の重要な役割を担ってきましたが、少子高齢化により、会員数は現在10名で、平均年齢は60歳を超えています。地域内で人の姿も見えず、声も聞こえなくなったことから、地域に元気を取り戻そうという思いで、平成21年に石川県から支援を受け、先駆的里山事業に取り組むことになりました。樹木を整備し、和牛を2頭飼い、放牧を開始。現在は4頭の和牛に除草に励んでもらっています。

棚田の石垣が崩れていたため、金沢城の石垣の修繕も手がけている石積みの名工に指導してもらいながら、会員総出で修繕作業を行いました。平成22年9月には木滑の3集落で、明治の頃から伝承されてきた踊り「あさがえし」を復活させました。何十年も踊られていませんでしたが、地域の皆さんの喜んで踊る様子を見ることができ、開催までの苦労が吹き飛びました。

現在、年間4回(春夏秋冬)里山まつり「山笑い」というイベントを開催しています。地域に活力が出た、賑わいが出たと言われています。自分で作ったものが売れる、米のはさかけのやり方を教えるなど地域住民の出番が増えたことから、高齢者の生きがいができ、地域に元気な声が聞こえるようになりました。

今後は、開拓した耕作地や事業の継続性を高めるために、協力体制の構築や人員の確保の問題について地域全体で解決に向け、取り組んでいきたいと思います。



1-c 石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み

NPO法人 金沢アートグミ (金沢市)

団体の部・奨励賞

「金沢まちづくり市民研究機構」で2006年から3年間、アートによるコミュニケーションの研究を行ってきた市民が中心となって生まれました。金沢を中心に北陸地区のアートに関する情報を収集発信すること、アートに関する人材や知的財産を産業や地域創造に活かすことを通じて、市民がより創造的に生活を楽しむことに寄与する活動をおこなっており、展覧会やレクチャーなどイベントを催しながら北陸のアート情報を発信し、様々なコミュニケーションを生み出しています。



加賀まればと交流協議会 (加賀市)

団体の部・奨励賞

多角的な地域である加賀市において地域間の結びつきを強め、面としての魅力を発信することを通じ、加賀の交流人口拡大と産業振興を目的として結成しました。

STEP21重点プロジェクトリーディング事業である「食」関連の「加賀のかがやきプロジェクト」や加賀市の歴史的産業である自転車を利用した周遊観光のできる環境をつくる「サイクルプロジェクト」、これら2つを効果的に発信する「広報プロジェクト」の3事業を柱として展開しています。



1-d 石川地域づくり表彰受賞団体・個人の取り組み

宮本 康一氏

個人賞

私たちは能登一円に多く存在するキリシマツツジの古木調査を進め、その結果を冊子として発刊し、この花木を素材とした地域おこしに取り組むことにしました。そのためには、呼び名の統一をはかり、近隣の同好者による組織化をはかる必要があると強く感じたのです。平成16年に同好の責任者が集まり、名称を「のとキリシマツツジ」とし、「写真紀行 のとキリシマツツジ」を刊行しました。

また、能登空港の利用客増加と賑わいの創出に役に立てればという思いから、平成17年から毎年、ゴールデンウィークの3日間、能登空港前の広場で「のとキリシマツツジフェスティバル」として展示会を開催しています。さらに、活動の強化を目的として、平成21年にNPO法人化。のとキリシマツツジを世に広くアピールし、能登半島へ目を向けてほしいとの思いと、交流人口の増加を期待して、各地で展示会とシンポジウムを開催しています。

現在、のとキリシマツツジの保護と「能登の宝」としての共通認識を 高めるために、樹齢100年以上と思われるのとキリシマツツジに、所有者の了解を得て、ナンバープレートを吊るし、その台帳製作に取り組んでいます。これにより、古木数は400本を超えることがわかりました。これは庭木として数百年におよび人々が愛情を込めて育ててきた結果ではないでしょうか。

個人賞ではありますが、NPO法人の会員全員でいただいた賞であり、みんなで喜びたいと思います。能登の宝が「日本」の、更には「世界」の宝となるようこれからも尽力します。



2 いしかわ地域づくり円陣2012を開催

9月8日、能登町で、当協会主催の研修交流会「いしかわ地域づくり円陣2012」を開催しました。今年は「光をあてる 磨きをかける 未来につなぐ 世界農業遺産「能登」から学ぶ」をテーマに、能登町で活躍する地域づくり団体による4つの分科会と、全体会、交流会が行われました。詳しくは、「地域づくり円陣2012」報告書でお知らせしますが、ここでは概要等を報告します。

光をあてる 磨きをかける 未来につなぐ 世界農業遺産「能登」から学ぶ

「国民宿舎 能登やなぎだ荘」

今年のメイン会場は国民宿舎 能登やなぎだ荘の大広間でした。



第1分科会

グリーンツーリズム 農家民宿で農村再生～若者が戻ってくる地域づくりを探る 月収40万円と高齢者が地域の資源(春蘭の宿)



第2分科会

まちは大きな博物館～「プチミュージアムの郷プロジェクト」と「奥能登トリビア蔵」を考える(ラプロ恋路)



第3分科会

「私たちは世界遺産を育てている～“のとキリシマツツジの郷”構想のアイデアを話し合う」(柳田教養文化館)



第4分科会

元気が見えるバーチャンネットワークをつくろう～みんなで暮らすまちづくり！みんなそばにいる！In能登町(能登町立柳田小学校 ランチルーム)



全体会、交流会

石川地域づくり表彰の表彰式、各分科会のコーディネーターやゲストによるひな壇トーク、各地域の特産品を持ち寄った交流会などを行いました。

